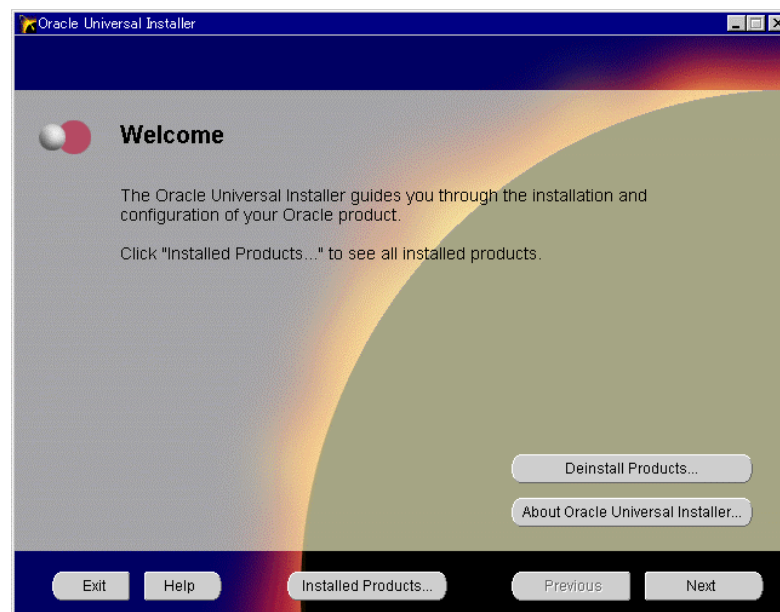


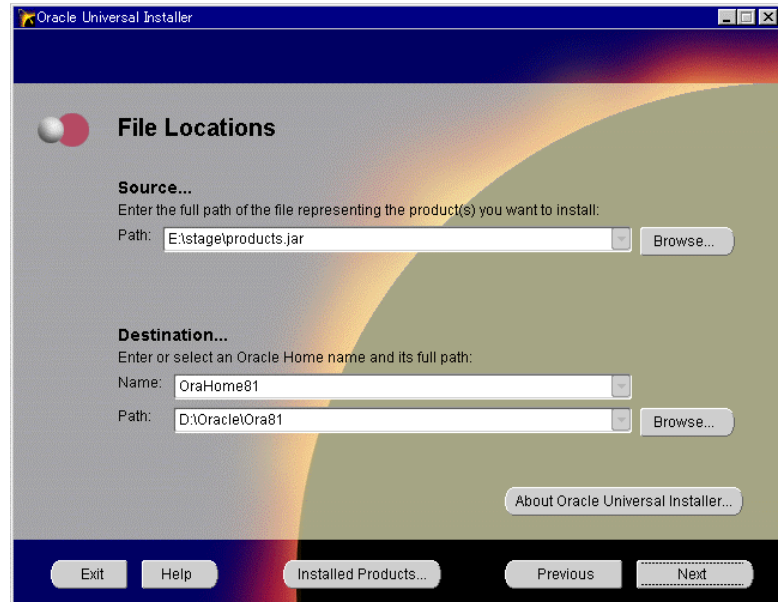
Oracle8i (8.1.6.0.0)のインストール方法

PDS のデータベースサーバとして利用できるように Oracle8i (8.1.6.0.0)をインストールする方法を説明します。

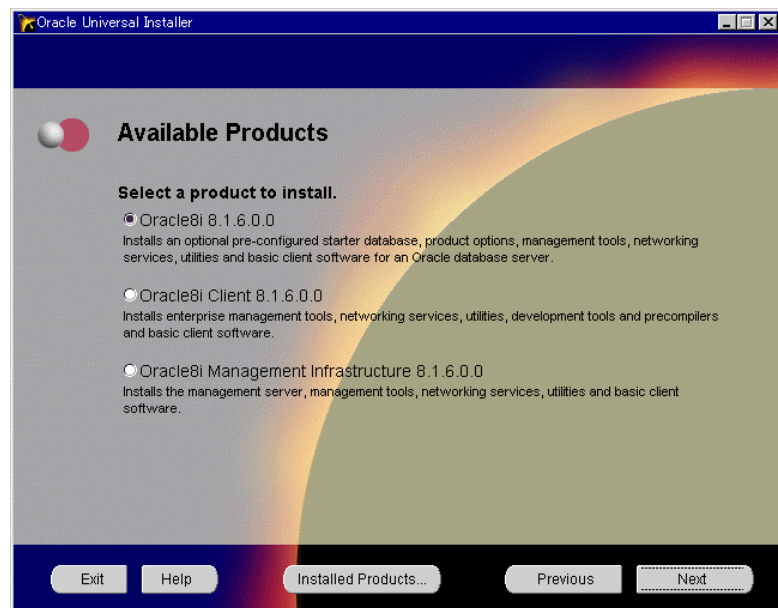
- 1) インストールするマシンの OS が日本語版 Windows NT 4.0 の場合、コントロールパネルの **地域**で、地域情報として“**英語 (U.S.)**”を選択しておきます(“**システムの標準の地域情報として設定**”オプションを選択する必要はありません)。
- 2) CD-ROM ドライブに、Oracle8i (Enterprise Edition/Workgroup Server)の CD-ROM を挿入します。以下のように Oracle Universal Installer が起動されます(自動再生が行われない場合には、Setup.exe を起動します)。パッケージの種類(英語版/日本語)等により、異なる画面が表示されるものもあります。その場合には、Install 等の項目を選択します。**Next** ボタンを選択します。



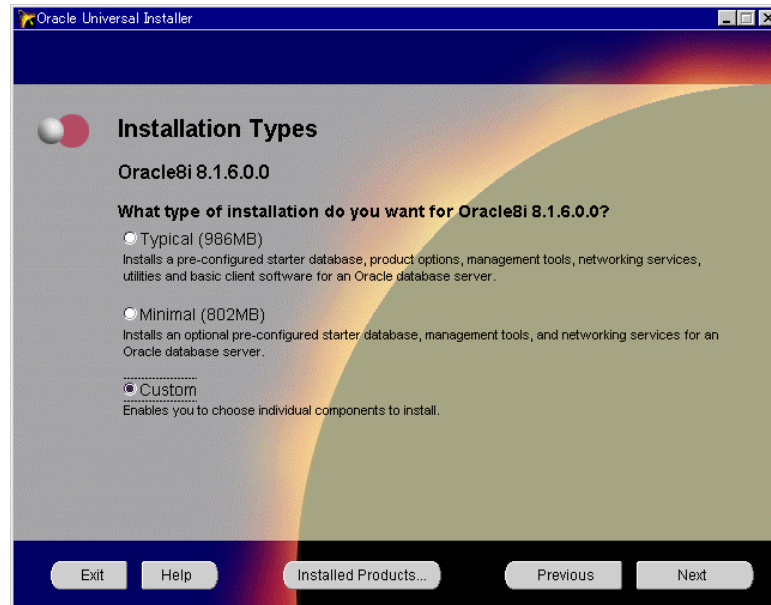
- 3) 以下のような画面が表示されます。インストール先として、**Destination...**の Path:に対してインストール先のパス名を入力します。なお、データベース(SID)作成の際のデフォルト設定では、このパス以下にデータベースファイルが作成されます。**Next** ボタンを選択します。



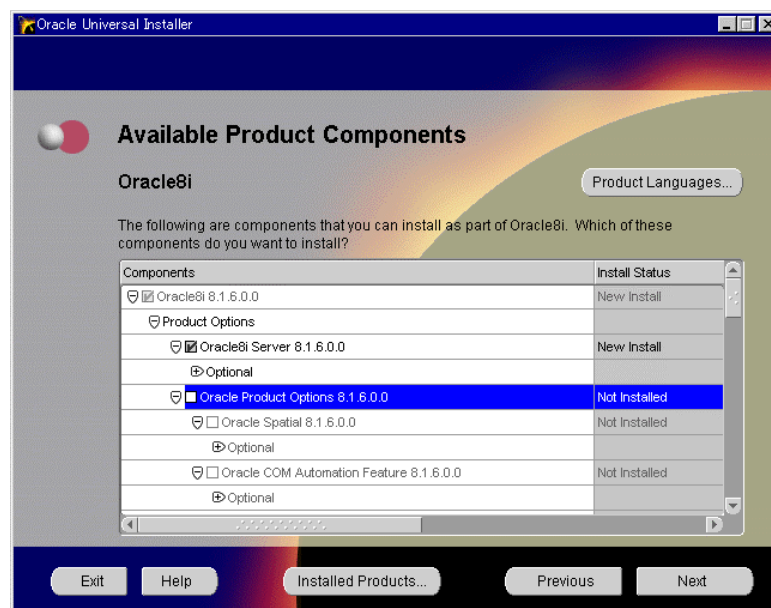
- 4) 以下のような画面が表示されます。データベースサーバとして利用するマシンに対してインストールを行う場合には、Oracle8i 8.1.6.0.0 を選択し、**Next** ボタンを選択します。



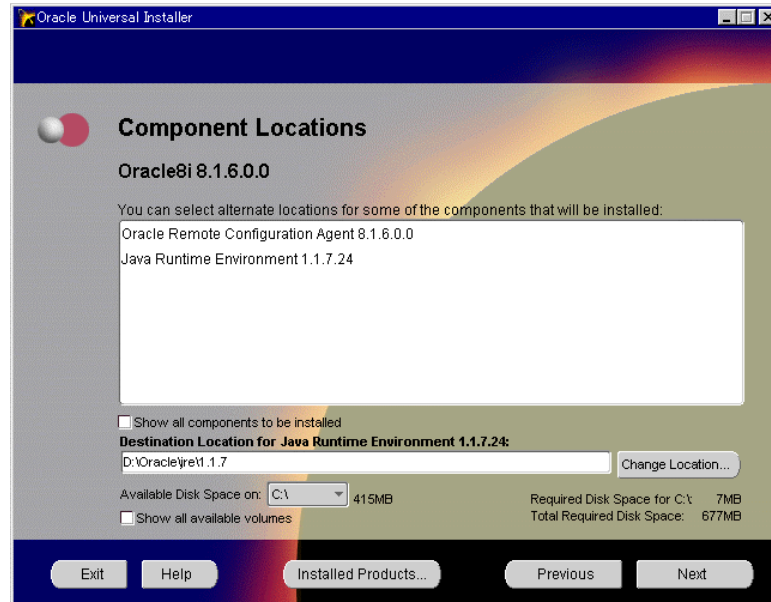
- 5) 以下のような画面が表示されます。Custom を選択し、**Next** ボタンを選択します。



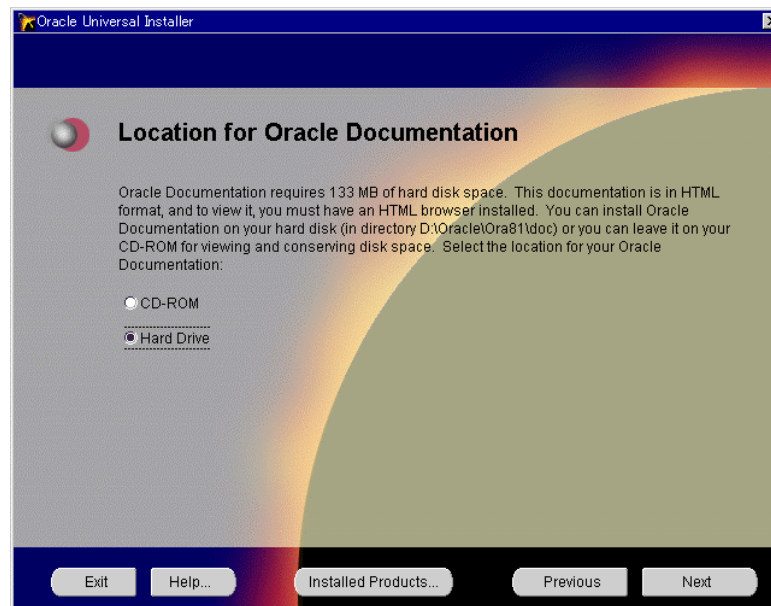
- 6) 以下のような画面が表示されます。インストールを行う製品を選択し、**Next** ボタンを選択します(通常、PDS のデータベースサーバとして利用する場合には、Oracle Product Options, Development Tools, Oracle Java Products, Oracle Enterprise Manager Products, Oracle Installation Products 等をインストールする必要はありません)。



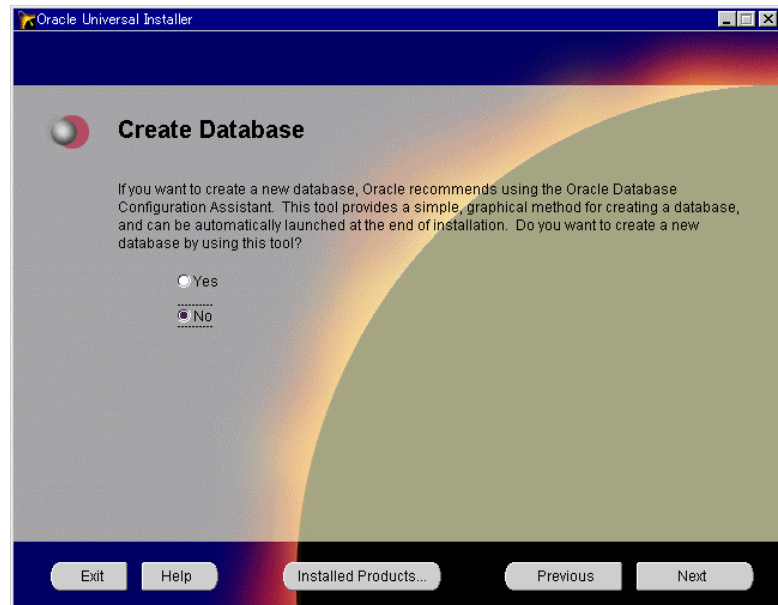
- 7) インストール先を変更できる製品がリストに表示されます。Java Runtime Environment のインストールを行う場合は、インストール先パス名に空白文字が含まれないように、C:\Program Files\Oracle\jre\1.1.7 から D:\Oracle\jre\1.1.7 等へ変更します。**Next** ボタンを選択します。



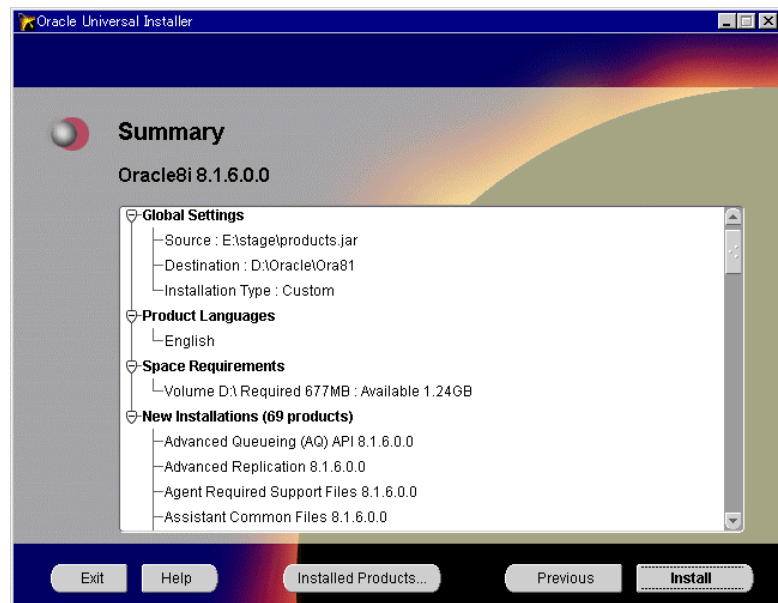
- 8) Oracle Documentation のインストールを行う場合は、以下のような画面が表示されます。ファイルを格納しておく場所として、CD-ROM または Hard Drive を選択し、**Next** ボタンを選択します。



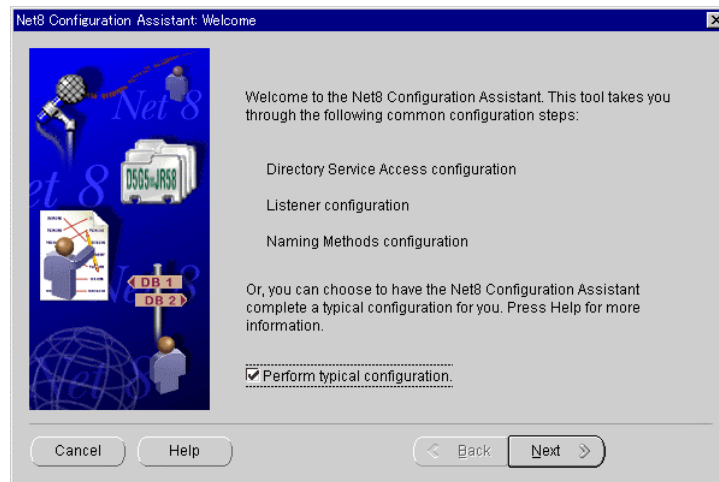
- 9) 以下のような画面が表示されます。インストール終了後、続けてデータベース(SID)の作成を行う場合は Yes、データベースを作成しない場合は No を選択し、**Next** ボタンを選択します。



- 10) 以下のような画面が表示されます。インストールの設定を確認し、**Install** ボタンを選択します。インストールが開始されます。



- 11) Net8 Products のインストールを行った場合は、Net8 Configuration Assistant が起動されます。InstalPerform typical configuration オプションを選択し、**Next** ボタンを選択します。



- 12) 以下のような画面が表示されます。他の製品を追加してインストールを行う場合は、**Next Install** ボタンを選択します。インストールを終了する場合は、**Exit** ボタンを選択します。

